

### たてがきヨコガキ

「ねこぼん」ははじめ横書きだった。テンポの良いお話にしたかったので地の文を極力削り、セリフと歌詞でお話を作った。ラフがほぼできて本描きに入るうかというとき、編集者のMさんが、いくつかのセリフが読みづらいと言出した。うーん。うーん。ほんとですね。伝わりづらい。どうしよう。うーん。

「これ、横書きだからセリフに合わないのかも」とMさん。あ…ほんとですね。

横書きの「ねこぼん」は縦書きで描き直すことになった。縦書きにしてみると、セリフと絵が繋がった。絵と文の間合い、説明少なめのセリフ、チャレンジしたかったことが縦書きの形にピタッとはまった。縦書きってこんなにおもしろいんだ！

優しい顔をしたMさんは、ひと文字ひと文字丁寧に作品に関わってくれるけど、決して手綱は緩めたりしない(笑) 良い編集者さんなのだ。

### 祝詞

由緒ある神社で従兄弟の結婚式に参列したときのこと。祝詞のことに驚いた。

家族や地域に感謝し大切にしましょう。可能であれば、こどもはたくさん産み育てましょう。それが夫婦の幸せです。花嫁さんに「可愛い赤ちゃんを産んでね」というのさえタブーの時代に、なんてきつぱり言うんだらう。こんな攻めた祝詞は初めて聞いた。ずっと昔からこれを正解にしてみんな家族を作ってきたんだらうな。家族や地域のあるべき形、進む方向を教えてください。そういう暮らしが近い最近まであったんだよなあ。

### じゃんちのこと

ジャーナリカ物語の絵本を描いているときに編集者のMさんに出会って、仏教の話から、死者も生者も森羅万象まじりあって盆踊りする絵本を作りたいですねという話になった。

最初に作ったラフは、うちにいた老猫のじゃんちのお世話をしながら描いた。じゃんちは身体を動かすことも辛そうで、ずっと寝てばかりだったので、もうすぐ「そのとき」が来るのかなという覚悟と、まだ一緒にいたい気持ちと、お世話の大変さのなかで、気持ちが引ったり来たりした。ラフは寂しいお話になってしまった。Mさんはなんとか方向転換させようとしてくれたけど、うまくいかなかった。

冬の寒い日に、じゃんちをみおくった。年が明けてだんだん気持ちが落ちて、あんな猫と会える明るく楽しいお盆を目標することにした。

### デザインと色

「ねこぼん」のデザイナーさんは丁寧を読み込んでくれるデザイナーさんだった。

ひっそりと静かな夜の場面は、文字がきつくならないよう薄い青になっていた。明け方のもやがかかった場面では、雰囲気をごささないよう、文字はくすんだ藍色にしていた。文の長さによって行間を4分の1mmまで調整したいと言われた時も驚いた。

「ねこぼん」の世界を作るため、フォントや見返しの色ひとつひとつ考えてもらっているのがよくわかった。

製本も難しい色をどっしりしっかりきれいにいに出してもらえたと思う。

関わってもらった人たちの丁寧な幸せな絵本になった。

### 猫の島

「ねこぼん」の世界作り。言葉はどうしよう。人間や他の動物との関係。何を食べているか。彼岸との境目は川でいいのか。通貨はあるか。文明の程度。構造物は作れるか。道具は使つか。農業をしているか…。すごく悩んだ。

琵琶湖にある小さな沖島が猫島だと聞いた。鳥獣戯画をあらためて見なおした。ポコッポコッとヒントに出会った。ここまでひとつひとつ「こうである理由」を考えたのは初めてだ。本描きの途中、あの世の猫は水に入れるけど、この世の猫は水が嫌いではなくてはと思い、見送りの場面を描き直した。近づきたいけどこれ以上は行けない、切ない場面にできたと思う。

長い時間をかけてばらばらと集めたピースが気持ちよくカチッとハマってくれた。

### 軽やかなお年寄り

こどもものころ「じきにお迎えが来るからな」なんてお年寄りの冗談に笑ったら不謹慎な気がして困った。

お葬式に「もうすぐそっち行くからな待っててや」と言ったおばあさんにもドキドキした。お年寄りは、あの世とこの世のさかめを気軽にひょいと超えてくる。わたしがまじめに考えすぎなのかなあ。ひょいひょいって軽やかだ。「あっちにみんないるからなあ」「ほっくりいけたらそれでええ」若いもんの反応を楽しむように容赦なく投げ込まれることば、最近やっとなしく返せるようになった。あっち側が近くなっただらなあ。

### おじいちゃん家の宴会

血がつながらない方のおじいちゃん家は本家筋で、盆と正月には、親戚のおじいちゃんおばさん従兄弟たちが集まって宴会が開かれた。ひっきりなしに燗酒が作られて、こどもはお酒を運んでは大人たちに注いでまわった。大人たちは小さなことから学校の成績までなんでもかんでも褒めてくれるので、こどもは褒めてもらえる恥ずかしいくない近況を報告した。

大人になっても盆と正月には、どんな道を選んだか、どんないいことがあったのか、今もお墓に報告する。おじいちゃんわたしを導いてくれてありがとうと、恥ずかしくない道を歩くと、このときだけは思ったりする。

### 色とりどりの丸

表紙の絵はすぐに思いついた。色とりどりに光る丸を描きたい。一気に描いた。描き終わってからの丸は何と説明しようかと考え、お祭りのぼんぼりと言ったことにした。編集者のMさんにはとても気に入ってもらえた。なんだかわからない丸についても「いいですね」とほめてもらい、丸の正体までは言われなかった。あるひとから「これは死者の魂ですね」と言われた。ほんとだ！わたしが描きたかったのは死者の魂だ！

どっにも説明できないけど描きたいイメージがどーんとあって描いてしまった。たまには…いいよね。

この世の猫も あの世の猫も

# ねこぼん

偕成社

今夜ひとばん盆おどり

郡上おどりに行ったよ

「ねこぼん」を作っているとき、盆踊りの空気を感ずるために岐阜の郡上おどりをみた。たまたま入ったカフエで音頭取りの歌い手さんにお話を聞くことができた。50年以上音頭取りを努めてこられた歌い手さんで、力強い誇りをびしびし感じて圧倒された。伝統を伝えなくてはねと、ふんわり優しいものではなくて「次の世代に伝えていく」キツパリ迷いのない意思。かっこよかった。明け方までつづく踊りもすばらしかった。こどもも大人も、思春期まっただなかの男子も、一生懸命踊る。うまいチームは衣装が派手だ。どこで買えるのかわからないような派手派手浴衣もたくさん。ああ、せんぶがかっこいい！  
大人がビシツとカッコよく楽しそうだと、こどもはふるさとが好きになるだろうなと思った。「ねこぼん」の背骨にしたかったことがハッキリ形になって見えた。



ねこのお盆は みょうみょうみょう  
ねこはぎねこのめねこじやらし  
ねこのなまえは 世界いち  
からすのえんどうへびにちぢ  
おおいぬのふぐりなんやこれ  
ねこのお盆は みょうみょうみょう  
せまいところも すりすりすり  
たかいところも にゃんぱっぴん  
めだまからせつめをとげ  
ねこのいちごく世界いち